

横浜市立西富岡小学校 学校評価報告書 (元～3年度)

重点取組分野	元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○社会科・生活科を重点教科として取り上げ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。①すべての子どもたちが互いに学び合う学習集団②討論などの対話的な学びの重視③問題解決的な学習の重視④学んだことの価値に気付くメタ認知力の育成⑤教科の枠を超えて学びを創る態度の育成	①②年度初めからお互いに聞き合う集団づくりを意識し、日々の学習を展開していった。自分の考えと他者の考えを比べながら、話し合い、思考を深める姿が見られた。③子どもが身近に感じられるように教材との出合わせ方を工夫した。④意図的に学習を振り返る場面を設定し、これまでの学びの内容や方法を見直すことができた。	B
豊かな心	①全教育活動を通して、道徳教育の充実を図る。②たて割り集団活動での各学年のねらいの明確化や内容の充実を図り活動することで、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。③友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようにする。	①様々な教科・領域、学校行事に道徳教育を位置づけて計画、遂行することができた。②毎回のたて割り集団活動において、学年に応じたねらいを意識して指導し、子どもたちの自己有用感の向上につながった。③委員会を中心にあいさつ活動を実施した。	B
健やかな体	①一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に行い、学年通信と個別支援学級通信の連動を図る。②個別支援学級の環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザイン教育について理解する。	①水曜日にロング昼休みを設けクラス遊びを実施した。体力向上と共に、外遊びの習慣作り、児童同士の関係づくりにも繋がった。②体力テストの結果から、反復横跳びの記録を向上させるために「おにごっこ週間」を行った。休み時間には、元気よく遊ぶ姿が見られた。	A
共感的理解	①授業の中で、異なる意見を認め合い、相手の良さを見つけることのできる関係性の育成②児童が自分の役割に責任と自覚をもって取り組むたてわり活動③児童がよりよい学校を目指して自ら活動計画を立て、実践できる児童会活動を行います。	①顔を見て聞く、うなずいたり適切な声を出したりしながら反応を返す等、基本的な聞き方を年間を通して指導してきた。他者の考えを理解しようとして、自分の考えと比べたりする姿が見られた。②たてわり活動では学年にあつためあてをもって参加するようにし、異学年が協力して楽しもうとしていた。	B
特別支援教育	①個別の支援計画・指導計画に基づき、子ども一人ひとりの状況に応じた支援体制・学習環境を作り継続的な指導を進める。	①機関連携やソーシャルスキルトレーニングなど研修を行い、職員の合理的配慮への理解を深めた。②交流級担任や他校の個別支援学級担任と綿密に連絡を取り合い、ねらいを明確にしてから近隣小中学校との交流活動や校内での交流活動や共同学習を進めた。	B
安全管理	①発達段階に応じた危機管理教室や防災・防犯訓練、交通安全教室等の体験活動を通して児童の危機管理能力を高める。	①様々な非常変災においても迅速に行動ができるように、避難訓練や不審者対応訓練、防犯教室を実施した。避難訓練では、予告なしの避難訓練、煙体験や消火器体験など状況を変えて訓練を行った。防犯教室では、今年度より高学年で、インターネットでのトラブルについて取り上げ生活に活用できるよう内容を工夫した。	A
地域連携	①開かれた教育課程をめざし、まちと共に歩む学校づくり懇話会を中心として、新しく設定した教育目標を周知、連携の在り方を探る。②学校と地域との情報共有、理解を図る。③学校運営協議会の設立に向けた基盤づくりに取り組む。	①まちと共に歩む懇話会や学校説明会などで新しく設定した学校目標の周知を図った。②低学年の生活科で公園を管理する人たちとの関りや昔遊びなどでの町の先生としての関りなど年間を通じて、繋がりをもちた学習づくりを実践できた。	B
保健管理	①学校保健委員会を中心として、児童自らが自分の体に関心をもち、よりよい生活をめざすための啓発活動②日常の保健学習の充実③日常の健康観察や疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取組	①「清掃活動」を軸としてきれいな学校にして健康に過ごすという目標に向かってクラスごとに活動した。学校薬剤師を招いて専門的な助言を得た。③担任を主とした日々の健康観察と共に、養護教諭が各教室を回って疾病の早期発見、及び児童指導に活かしている。	B

いじめへの対応	<p>①児童支援専任を中心に組織として子ども一人ひとりを大切に児童指導を進める。特に毎月職員会議内で定期的に子どもの情報の共有化を図る。</p> <p>②アンケートを活用しながら日頃の児童の見取りを十分にすることでいじめ等の未然防止に努める。</p>	<p>①職員会議で、児童の様子共有を行うことができた。いじめ防止対策委員会を児童指導専任を中心に毎月末に実施した。必要な情報については打合せ等で伝え、職員全体で共有した。②年に2回、いじめアンケートとYPのアンケートを取り、指導に活用した。</p>	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	<p>①メンターチームを6年以下の教職員を中心に組織する。全体の相談役に主幹教諭、様々な講師にはミドルリーダーがあたり月1回の活動を継続的に行う。②職員会議をペーパーレスで行い、事務の効率化を図る。③2週に1度教務会を行い、学校リーダーが全体を見通して学校運営に参画していく場を設定する。</p>	<p>①各教科主任から助言を受けながら、授業実践に生きるスキルアップを図ってきた。また、学級経営・学校運営の在り方について深め、若手教員の育成を図った。②電子掲示板を活用し、職員会議でのペーパーレス化を進めることができた。③主幹教諭を中心としたリーダーが企画会に参加し、学校経営意識を高めた。</p>	B
ブロック内評価後の気付き	<p>・新学習指導要領実施に向け、新しく作成した小中一貫のテーマ「TWO YOU」(優・自己にも他者にも思いやりのある子 勇…未来を見すえ、一歩踏み出し、表現できる子)で、今年度授業研を行った。5つあったテーマを絞り込むことで、重点化して取り組む事が明確になり、9年間でめざす子どものイメージがもちやすくなったという振り返りがあった。</p>		
学校関係者評価	<p>・旗持活動を10年以上続けているが、明るく元気な様子は変わらない。元気に挨拶ができる子どもが多い。</p> <p>・登下校の様子を見ると、登校時に、特に低学年の児童で交通ルールを守れない子どもがいるように思える。町の中でも、「マナー」や「ルール」が守れるとよいと思う。一人ひとりの子どもたちはとても素直だが、集団になると勝手な行動をとることがあるのではないかと。交通安全という視点からは気になることが何点かある。信号無視をして横断する子どもや一旦停止で止まらない自転車等が気になる。保護者に加えて、町の人たちも同じように声をかけていく必要がある。(5月「まち懇」にて)</p>		
中期取組目標振り返り	<p>学習面では自ら問いをもって取り組んでいく学習態度の育成をめざして、組織的な指導体制を構築して取組を続けている。社会科・生活科、生活単元を中心とした重点教科などで、子どもたちの意欲的な学習態度が育ってきている。次年度も引き続き、実態を細かく見つめた上で、周りに関わりながら自ら学ぶ子どもたちをチームで育てていきたい。高学年の子どもたちをリーダーとしたたてわり活動では、初めての全校遠足も実施することができた。ペア学年の取組も含め、計画的にたてわり活動の充実を図っていく中で、子どもたちのコミュニケーション力(あいさつ等)の育成につなげたい。</p>		